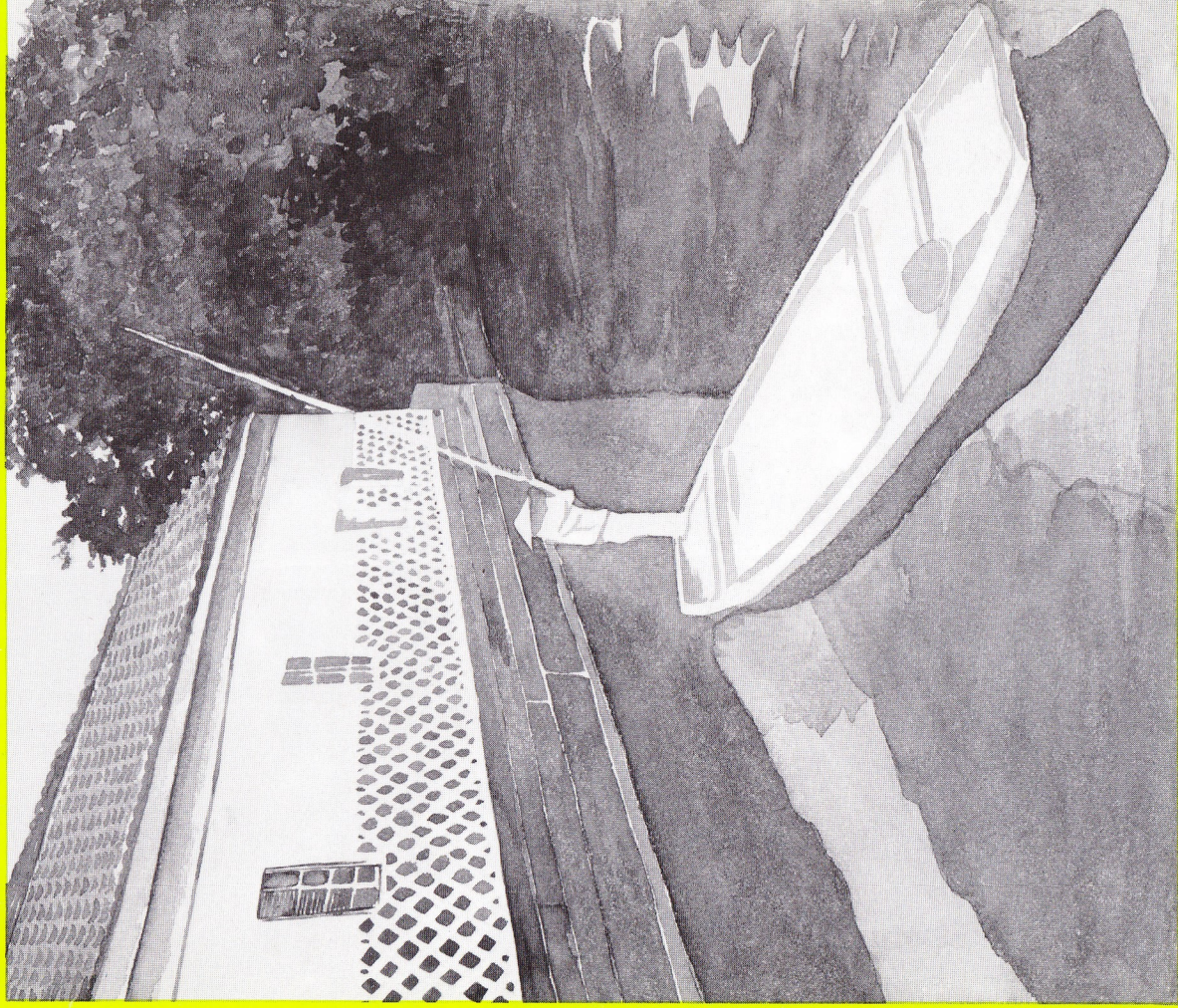


第20回記念定期演奏会



小田原男声合唱团



日時 1991年7月13日(土)18時30分開演

場所 小田原市民会館大ホール

あいさつ

小田原男声合唱団

団長 柏木 秀 茂

本日は、大変お忙しいところ、私たちの演奏会にご来場をいただき、誠に有り難うございます。

ここに記念すべき第20回目の定期演奏会を迎えることができ、団員一同感激しております。これも、ひとえに地域の皆様方、また各合唱団、各種の演奏団体、団員の家族の皆様方のお力添えと深く感謝申し上げます。

20年と一口に申しますが、矢張り相当な長さです。日常の働く男社会の枠の中において、「継続は力なり」の通り、続けてきた事のすばらしさをかみしめております。創立当時から歌わせていただきましたが、楽しい事、つらい事、いろいろありました。その中から“五つの出来事”として想い出を取り出してみました。

(1) がむしゃら歌った第1回の定期演奏会（昭和47年5月16日（火））

五つのステージ、3時間という長い演奏会でした。

(2) 福永率いるブルー軍団、全国コンクール開催地、岡山市に上陸、銅メダル獲得

（昭和48年11月24日（日））

ライトブルーのユニホームで、会場はビックリ、“アッ！”といわせたものでした。

(3) 200名の男声合唱団、名古屋開催のJAMCAに初出場（昭和50年1月19日（日））

小田男の出し物は“聖チェーリア ミサ”でした。

(4) ドイツ音楽の本物と歌えた、ベルリン・リーダーターフェルとの合同演奏会。

（昭和55年3月19日（水））

合同曲は、“別れ”と“夜のうた”でした。

(5) 福永先生ご逝去（平成2年2月10日）私たちは、がんばっています。“陽チャン先生”安らかに眠り下さい。

さて、今回の記念演奏会には、大きな特徴が二つあります。その一つは、私たちの念願でありました、作曲家の多田武彦先生をお招きできたことです。先生の作品特に“雨”や“柳河風俗詩”は小田男の得意とするレパートリーの一つであり、作曲家ご自身の指揮で、あの多田節が歌えることのすばらしさ、多田先生独特の音楽づくりを大いに楽しみたいと思います。また、小田原地方で活躍している小田フィルとの協演です。モーツァルトや、オペラの合唱曲をオーケストラ伴奏で歌うのも楽しみの一つです。

このように、話題をたくさん含んだ演奏会となりました。20周年を一つの節目として、質の高い芸術文化を追究し、地域社会の発展のために頑張りますので、最後までご声援をよろしく願っています。

本日は大変ありがとうございました。



第19回定期演奏会

メッセージ

多田 武彦

今回、凶らずも小田原男声合唱団のリサイタルに参加させていただき機会を得て、なるほどと納得したことがいくつあった。

先ず、みんなが「合唱」をこよなく愛し、「音楽」という、人類と永い付き合いのある芸術を尊ぶ心を大切にしていることに、さまざまに職業を通じて社会的使命を果しているメンバーが、この合唱団の場を通じて、意見を交換し、それぞれの職掌に一層の磨きをかけていたこと。

そして、このエネルギーの源流に、永年この団を指導され、惜しまれて他界された福永陽一郎先生の人生哲学が、確認されること。

更に、今回、私は、たくさんの注文をつけながら練習をすすめて行ったが、この異なった指揮者に対する即応性が高かったこと。

今日、日本では、小田原男声合唱団と同じように真摯な活動を続けておられる団体も多いが、その中でも突出したパーソナリティをもった団体とお見受けした。

この得難い伝統と特性を持った小田原男声合唱団が年々、若い世代の参加を得て、悠久の発展を遂げられんことを、心からお祈りする。

渡邊 決己



幼時よりヴァイオリンを三浦二郎、鷺見三郎、日比野愛次各氏に師事し、小学四年生で東北地区器楽コンクール入賞、ピアノを田村宏、清水玲子各氏に、桐朋学園音楽科指揮聴講クラスにて、故斎藤秀雄氏に指揮法を、国立音大夏期講習等で作曲を島岡謙、中村太郎各氏に、東京芸大にて、三石精一、金子登各氏に指揮を、管弦楽法を佐藤真氏に、声楽を伊藤巨行氏に師事、芸大卒業後、財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団に所属し、ボニー・ジャックス等と神奈川県民ホールでデビューするからたわら、NHK交響楽団で指揮研究を行い、韭崎での音楽教室でN響を振る。又、東京室内歌劇場主催の数々のオペラの指揮を行い好評を博す。また、指揮のかたわら坂東玉三郎・真田広之の指導や、KMG音楽事務所、office K.M.G.とを主宰、'89・'90ミュージカル“ピーターパン”をそれぞれ8月（新宿コマ）9月（青山劇場）で指揮し、'91/3～4月にも青山劇場にて指揮し好評を博す。尚編曲・作曲等でも多方面で活躍中である。

遠藤 優子



東京芸術大学および同大学院独唱科修了。

1980年第49回音楽コンクール声楽部門 第1位受賞。

1981年文化放送音楽賞 受賞。

その後、オーストリア・モーツァルテウム大学、ドイツ、イタリアにて研修。1989年日唄文化協会フレッシュコンサート奨励賞受賞。酒井弘、飯山恵巳子の各氏に師事。在学中より、日本歌曲やドイツ歌曲のコンサート、宗教曲、ソロ、オペラ等に出演。

横浜を中心として親しみやすいコンサートを企画演奏し、好評を得ている。二期会会員 横浜シティオペラ会員および運営委員。

プロフィール

多田 武彦 (60歳)

1930年大阪に生まれる。

旧制大阪高校一年(1947年)のとき、先輩田中信昭氏(現東京混声合唱団常任指揮者)に誘われ、コーラス部に入部。無伴奏合唱曲の虜になり、このことが後になって、専ら、無伴奏合唱曲を作曲する動機となる。

1953年京大法学部卒業後は、映画監督への夢を捨てて銀行に就職、融資畑を歩み、いくつかの上場会社に、役員として出向、会社再建に尽力。

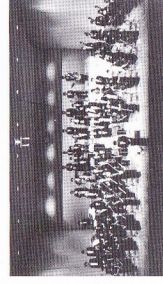
平日は勤務先の仕事に専念し、作曲は「スケッチは通勤電車の中、浄書は休日に家で」という枠組みの中でおこない、今まで六十近い合唱組曲(曲数にして約350曲)を作曲。

氏の特徴は、作曲家故清水脩氏の薫陶による「詩の厳選」。永年の間に、多くの読者によって選び抜かれた詩の中から、さらに「詩自体に音楽がある詩」を選び、これを基に組曲としての起承転結を考えながら構成し、「これらの詩の持つ音楽」に寄り添うように作曲をする、といった作曲技法を頑ままでに遵守してきており、処女作の「柳河風俗詩」(1954年)以来、氏のおおくの作品が愛唱され続けられてきた所以となっている。

(本人のご希望により写真の掲載は差控えます)

——ソプラノ・オーケストラ——

小田原フィルハーモニー交響楽団



1958年に創立し小田原市に本拠地を置くアマチュアオーケストラ。

小田原在住・在勤者を中心に構成されているが、近年他市町及び都内からのメンバーも参加している。年2回の定期演奏会をメインに市内の小学校における音楽教室や他市町への出張演奏等幅広い活動を行い、昨年度の市民文化功労賞を受賞している。現在音楽監督の小林陽信氏とコンサートマスターの白井英治氏の薫陶を受け演奏技術のさらなる向上に努めている。

プログラム

I 男声合唱組曲「柳河風俗詩」

指揮 多田武彦

北原白秋 作詩
多田武彦 作曲

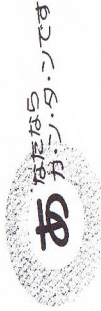
1. 柳河
2. 紺屋のおろく
3. かきつばた
4. 梅雨の晴れ間

II 男声合唱組曲「三崎のうた」

指揮 多田武彦

北原白秋 作詩
多田武彦 作曲

1. 丘の三角畑
2. 白南風黒南風(しろばえ くらばえ)
3. 海雀
4. 雨中小景
5. 鮪組



目標100万円!

期間別毎月お積立金額

期間	掛金	初回お積立金額	2回目以降お積立金額
5年 (60回)		10,700円	15,200円
3年 (36回)		21,290円	26,300円
2年 (24回)		39,730円	40,000円

お役に立つ
なだばら



小田原第一信用組合

プログラム

Ⅲ フリーメイソンのためのカンタータ

指揮 渡辺 決 己

作曲 W.A.モーツァルト

Dir, Seele des Weltalls

K. V. 429

「汝、宇宙の魂に」

Die Maurerfreude

K. V. 471

「フリーメイソンのよろこび」

Eine Kleine Freimaurer-Kantate

K. V. 623

フリーメイソンの小カンタータ「われらの喜びを高らかに告げ」

Ⅳ ヴェルディ オペラ合唱曲集

指揮 渡辺 決 己

- ・「トロヴァトーレ」より 第3幕 第1場 兵士の合唱「ラツパの響きに」
- ・「ナブッコ」より 第3幕 第2場 ハブライの捕虜たちの合唱
- ・「トロヴァトーレ」より 第2幕 第1場 鍛冶屋の合唱「朝の光がさして」
- ・「リゴレット」より 第1幕 第2場 廷臣たちの合唱「静かに静かに」
- ・「リゴレット」より 第2幕の合唱 廷臣たちの合唱「公爵・公爵」

Ⅱ・Ⅳステージはオーケストラ伴奏

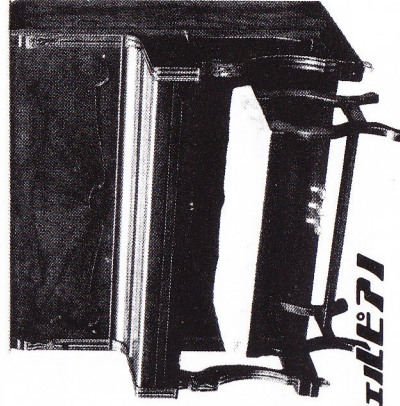
小田原フィルハーモニー交響楽団

Ⅱの2 Ⅲの2 Ⅳの3 ソプラノソロ

遠藤 優子

KE803

間口=151cm、
奥行=66cm、
高さ=131cm、
重量=28.5kg
鉄本木材、ウォールナット
アンティーク仕上げ、黒
鋼、手彫り彫刻、総ア
ラフ方式採用、P5レ
ンナーハンマー使用



クロイツェルピア

KREUTZER MEISTER SERIES

マイスターの技が、音とフォルムの芸術品を創りました。クロイツェルピアは、技術の国ドイツにおいて優れたピアノ技術者だけに与えられる権威あるマイスターの称号を取得。その高い芸術性はフォルムにまでおよび、ヨーロッパの伝統工芸品の風格を漂わせています。

代理店

井上楽器

小田原お堀端通り・☎0465(24)0515

組曲「柳河風俗詩」について

多田 武彦

昭和27年、私がまだ京大の学生で、京大男声を指揮し、清水脩先生の組曲「秋のピエロ」を演奏したとき、はじめて清水脩先生にお会いした。翌28年、銀行に就職した年の合唱コンクール課題曲に、「柳河」が佳作入選したとき、清水先生から、「月一回大阪で教えているから、来てみるか」と推められ、対位法を学ぶことにした。習い始めて二度目に先生は、「理論も大切だが、作品も作ってみなければ駄目だ。来月までに何か作って来なさい」と言われたので、さきに佳作入選した「柳河」にあと三曲を加え、組曲「柳河風俗詩」とし提出した。

あれから40年近く、私も還暦を通過したが、「柳河風俗詩」は愛唱され続けた。北原白秋先生の詩の力の賜物である。私は清水先生の教えに従い、詩の中に流れていく起承転結を合唱曲におかえたにすぎない。

旧制大阪高校の頃、一年先輩の田中信昭さん（現、東京混声常任指揮者）が講堂で、山田耕筰先生作曲で白秋の「六騎」を口ずさんでいたのをそれとなく聞いたときから、この詩が含まれている詩集「思ひ出」に関心をもった。多くの美しい詩群の底に秘められた、当時の多くの人びとの、計り知れない苦しみや悲しみを、ひしひしと感じたからだろうか。

最近も白秋の詩による組曲「東京景物詩」を書き上げたが、この想をまた新たにしたい。

組曲「三崎のうた」について

多田 武彦

この演奏会で私の受け持つ曲を決めるに当たって、小田原男声のかたがたのご相談し、小田原や三崎に由縁の深い白秋のものを選ぶことにした。

白秋は大正2年5月、29才のとき三浦三崎に、同7年2月、34才のとき小田原十字お花畑に住んでいる。三崎に移り住む前年の不幸な出来事に見舞われた詩人の心を癒すかのように、相州の陽光は暖かく、この印象や人びとの生活を白秋は「畑の祭」に綴り込んだ。

昭和40年、私は小田急線の生田に住み、そこから藤沢を経由して、よく湘南や三浦半島に出かけた。昭和44年、明治大学グリークラブから新作を依頼されたとき、三浦半島や湘南を描いた白秋の詩群から四つを選び、組曲「三崎のうた」を作曲したが、昭和59年にこれに一曲を加え、現在の五曲編成にした。

モーツァルト／フリーメイソン・カンタータ

福 永 陽 一 郎

Free-Mason(英)、Freimaurer(独)は、直訳すれば「自由石工組合」という意味である。大規模建築のほとんどが石造物であった中世では、石工はきわめて重要な職業であったが、彼等はその仕事の特殊性と重要性かあ、特定の王侯貴族に傭われた終生飼殺しの他の種の職人と違って、古くから、仕事の都度賃金の支払いを受ける「自由労働者」であった。彼等は、仕事

から仕事へ渡り歩くため、必然的に見聞をひろめた教養人となり、また、ひとたび大きな建築にとりかかれれば、数年にわたったりその工事現場に寝泊りすることから、一定の自治のルールに従うことで秩序を保持した。現存する最古の憲章は1390年のものといわれている。その憲章には、メーソン＝石工の“掟”はエジプト伝来のものだと明記されているという。

ルネッサンスを終ったヨーロッパの16世紀から18世紀までの3百年は、ヒューマニズムの興隆と科学の発達が、中世的な二つの不条理な権威、すなわち封建領主と教会とを倒していった輝かしい世紀であるが、もともと進歩的な色彩を帯びていたメーソンの組合社会に、そこにあがれた上流社会の人士が入りやすくなるようになり、石工でない人間が、その憲章を尊重し、そこでの精神修養に参加した。そして遂に、石工とは何の関係もない進歩的な教養人の修練の場所としてのフリーメイソンの結社が成立するのである。

フリーメイソンは、それ自体、宗教団体ではないが、宇宙の建築家＝Architectを神に合わせる中心と考えていた。それは太陽によって象徴されていて、巨大なエネルギーで人類を養う生物の源泉なのである。これはエジプトのオシリス神信仰に発し、ており、従って、フリーメイソンの憲章は、キリスト教から見れば異端である。それと同時に、フリーメイソンは、本来の世の職能組合の流れをひいて、技術秘密の漏洩防止規約がきわめて厳格であったから、自分たちの規約や典礼を外部に出すことをしなかった。その二つの理由から、欧米のキリスト教社会からは、秘密結社として危険視された。結社の自由を禁じたナチスからも迫害された。しかし、フリーメイソン自体はきわめて寛容な団体で、キリスト教は勿論のこと、いかなる他の宗教・主義を拒否しない。だが、きわめて厳格な道徳律が守られているだけなのである。

モーツァルトは、1784年12月5日、ウィーンでフリーメイソンに加入した。モーツァルトがフリーメイソンであったことは、長い間、秘密にされていた。19世紀というビュリタニズムの世紀において、何も知らされていない人々は、フリーメイソンが、何かいかがわしいもののような偏見におかされていた。キリスト教からの異端視や政治体制からの弾圧が、組織の秘密化を強化していたから、フリーメイソン関係事項は、自他共にタブーとなっていたのである。

モーツァルトの最高傑作のひとつ「魔笛」がフリーメイソンの教義の劇化であることを、いまや否定する人はない。「魔笛」の中でいやになるほど繰り返して強調される「知慧」と「徳」は、そのままフリーメイソンの最大の教義であった。それにとどまらず、モーツァルトの本当の傑作はすべてフリーメイソン精神の影響下にあることは、彼の加入が、オペラでは「後宮よりの逃走」と「フィガロの結婚」の間、交響曲では、「リンツ」と「プラハ」の間、ピアノ協奏曲ではへ長調 K.459とニ短調 K.466の間という日付になっていることに留意すれば、おのずと明らかであろう。あの永遠の名作「アヴェ・ヴェルム・コルプス」でさえ、キリスト教的というよりフリーメイソンの教義の反映だと言われているのである。

(第8回定演プログラムより)



お食事 送亭

お堀端通り

小田原市栄町1-13-31

TEL 23-3631

ヴェルディ オペラ合唱曲集

オペラという言葉から思い浮かぶもの、それはオーケストラピットからわき上がる軽快な前奏曲や、プリマドンナの歌う華やかな Aria や、あるいは目もあざやかなバレーであったりします。しかし、オペラの中に占める合唱の役割も決してそれらに劣るものではありません。雰囲気盛り上げ、情景をいっそう鮮明にし、劇の内容を強く訴えかけるものとして、古今のオペラに欠くことのできないものとなっています。オペラの楽しさを知っている人にとって「合唱のないオペラなんて……」というわけでしょう。

兵士、狩人、船乗りなど男性の扮する役柄の合唱曲には有名なものが大変多く、力強く勇壮な聞かせどころなのですが、本日はイタリアオペラの巨匠、ヴェルディ (1813~1901) の作品からいくつかを演奏します。

1. 歌劇「トロヴァトーレ」第3幕第1場

兵士の合唱「ラッパの響きに」

アラゴン地方の名門ルナ伯爵家に伝わる、行方知れずの男子の物語りを軸に、吟遊詩人 (トロヴァトーレ) やジプシーたちの物語が複雑に絡み合うこのオペラの、第3幕第1場。遠くにカステロール城を望むルナ伯爵の野営地、明日の合戦の勝利を願って歌う兵士たちの合唱です。

進軍ラッパを轟かせ／呼べ、武器に、戦闘に、攻撃に／明日こそ胸壁の頂きに／われらが軍旗を打ち立てろ／いや、これほど幸先よよい前途は／いままだか／覚えがない／そこは利得と誉れが待っている／戦果と勲功とふんだんにある／進軍ラッパを轟かせ。
〈小潮村幸子・訳〉

2. 歌劇「ナブッコ」第3幕第2場

ヘブライの捕虜たちの合唱「行け、わが思いよ、金色の翼に乗って」

旧約聖書にある、古代バビロニアの王ナブゴドノゾル (ネブカドネザル) の事蹟に基づくこのオペラの中で、最も広く知られ、ヴェルディのオペラ合唱曲の最高傑作とも言われる名ナンバー。このヘブライ人たちの望郷の歌の中に、オーストリアの王政下にあったイタリアの統一と独立を願う、ヴェルディ自身の愛国心が美しいメロディをかりて歌われます。

行け、わが思いよ、金色の翼に乗って／行って、憩え、あの丘に、山に／あそこには、ぬくく、やわらかに／故国の甘い風が薫っているよ！／それから挨拶を、ヨルダン川の岸辺に／シオンのは丘の崩れた塔に、届けてくれ……／ああ、あの美しい今は失われたわが祖国！／ああ、あの懐かしくも不幸な思い出！／運命を告げるという予言者の金の堅琴よ、／なぜお前は、黙して柳の木にかかって語る？／うちに収めた記憶を取り出し／過ぎし日をわれれに語りてくれ！／あるいはエルサレムの運命に似せた／悲しき嘆きの歌を響かせてくれ／さも無くば、神から授かって、聞かせてくれ／苦しみに耐える力となる楽の音を！
〈小潮村幸子・訳〉

3. 歌劇「トロヴァトーレ」第2幕第1場

ジプシーたちの合唱「朝の光がさしてきた」
〈鍛冶屋の合唱〉

同じく「トロヴァトーレ」の第2幕の幕開き、ビスケー山麓のジプシーの小屋の場で歌われるおなじみの曲。このメロディは戦後すぐに高校の教科書にも採られましたからご存じの方も多いでしょう。

見ろよ、そうら、黒く暗い夜の衣を／大空が脱ぎ捨てて行く／似ているぞ、やっとのことに後家さんが／まとうていた黒い服を脱ぎ捨てるのに／さあ、仕事だ、仕事だ、仕事！打て！金槌！／ジプシーの生活に彩りをそえるのは？／そりゃ、ジプシー娘！

俺に一杯ついてくれ、飲めば／心も体も、生氣と勇氣を得るってものさ。

ほら、そら、そら、太陽の光が／盃の中で、いよいよ輝きを増してきた！／さあ、仕事だ、仕事！／ジプシーの生活に彩りをそえるのは？／そりゃ、ジプシー娘！
〈小潮村幸子・訳〉

4. 歌劇「リゴレット」第1幕第2場

廷臣たちの合唱「静かに、静かに」

5. 歌劇「リゴレット」第2幕

廷臣たちの合唱「公爵！公爵！」
ヴィクトル・ユエゴーの〈逸楽の王〉を基に、舞台を北イタリアのマントヴァに移し、人物の名も変えて作曲された、ヴェルディ第16番目のオペラから、廷臣たちの合唱2曲。

「静かに、静かに」は第1幕のフィナーレ、マントヴァ公爵の廷臣たちが、リゴレットの娘ジルダを誘拐する場面で歌う合唱。「公爵！公爵！」は、第2幕で同じく廷臣たちがリゴレットの情人 (実は娘のジルダ) をさらってきたと、公爵に手柄話をする場面の合唱です。

静かに、うまくやれよ、物音立てるな／奴めを不意に捕えろ、猿ぐつわを食ませろ／素早く運びだして、そのまますぐ逃げろ／さんざん世間を笑った奴めを／今夜はあべこべに笑ってやれよ、こちらが／静かに素早く、静かに静かに／気をつけて、うまく仕事をすのさだ／しめたぞ！

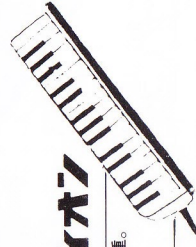
殿、殿、リゴレットの恋人を捕えてきました／奴の秘密の隠れ家、夜にまぎれに襲い／秘めやかに獲物をば、とうとう見つけて／うましく捕えらる所へ奴がしのんで参り／折悪しくその時々に現れ出ました／さとうれわれりゃ一大事／チュアラーノの夫人を捕えるのじゃと言いくるめ、奴の目を隠して／はしごを押さえる役をさせました／そこで、住まいに押し入り、奴の女を捕え／あと白波と、闇にまぎれ、逃げのびました／後で、奴はさぞかし悔やんだことでしょう／済んでから、泣いても、ほえても後の祭です。
〈堀内 敏三・訳〉

はじめて出逢う・音楽のよろこび

20
年
の
主
役

ススキメロディオン

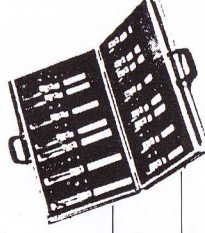
ソプラノからバスまで13機種。
演奏性・用途に合わせた
メロディオン。



20
年
の
主
役

トーン・チャイム

創造するよろこびが、音楽のよろこび。
トーン・チャイム。



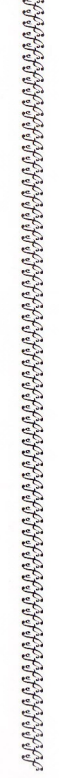
株式会社 鈴木楽器製作所

〒430 浜松市領家2-25-11 TEL.<053>461-2325(代)

鈴木楽器販売株式会社

神奈川(営)：横浜市緑区すき野2-6-6 TEL.045-901-2160

歌



柳河風俗詩

北原白秋 作詞

(I) 柳河

もうしもうし 柳河じゃ柳河じゃ
 銅の鳥居を見やさんせ
 欄干橋を見やさんせ
 (馭者は喇叭の音をやめて
 赤い夕日に手をかざす)
 薊の生えた その家は
 その家は
 遊女屋
 人も住まはぬ遊女屋

裏のBANCOに居る人は……
 あれは隣の縁娘
 水に映ったそのかげは
 そのかげは
 母の形見の小手鞆を
 小手鞆を
 赤い毛糸でくくるのじゃ
 涙片手にくくるのじゃ
 もうしもうし 旅のひと
 旅のひと
 あれ あれの三味をきかしゃんせ
 塲の浮くのを見やさんせ
 (馭者は喇叭の音をたてて
 赤い夕日の街に入る)

夕焼け小焼け
 明日天気になあれ
 註 BANCO 縁台

(II) 紺屋のおろく

にくくいあん畜生は紺屋のおろく
 猫を擁へて夕日の浜を
 知らぬ顔してしゃなしゃなど
 にくくいあん畜生は筑前しほり
 華奢な指さき濃青に染めて
 金の指輪もちらちらと
 にくくいあん畜生が薄情な眼つき
 黒の前掛 毛縞子かセルカ
 博多帯しめ からころと
 にくくいあん畜生と 擁えた猫と
 赤い入日にふとつまされて

瀧に陥って死ねばよい
 ホンニ ホンニ……

(III) かきつばた

柳河の
 古きながれのかきつばた
 屋はONGOの手にかをり
 夜は萎れて
 三味線の
 細い吐息に泣きあかす
 (塲のあたまに火を点いた
 瀧んだと思つたらちい消えた)
 註 ONGO 良家の娘

(IV) 梅雨の晴れ間

廻せ 廻せ 水ぐるま
 けふの午から思信が
 隈取紅い しゃっ面に
 足どりかろく 手もかろく
 狐六法 踏みゆかむ 花道の下
 水ぐるま……

廻せ 廻せ 水ぐるま
 雨に濡れたる古むしろ
 円天井のその屋根に
 青い空透き 日光の
 七宝のごとさきらきらと
 化粧部屋にも笑ふなり

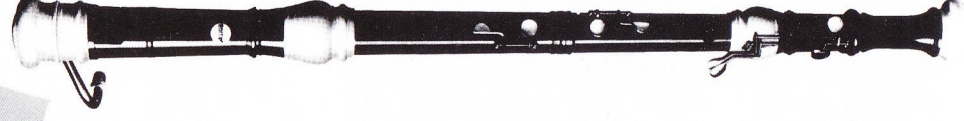
廻せ 廻せ 水ぐるま
 梅雨の晴れ間の一日を
 せめて楽しく浮かれよと
 廻り舞台も滑べるなり
 水を汲み出せ その下の
 葱の畑のたまり水

廻せ 廻せ 水ぐるま
 だんだん幕の黒と赤
 すこしかかけて なつかしく
 旅の女形もさし覗く
 水を汲み出せ 平土間の
 田舎芝居の垂柳

廻せ 廻せ 水ぐるま
 はやも屋から忠信が宛とった しゃっ面に
 足どりかろく 手もかろく
 狐六法 踏みゆかむ
 花道の下 水ぐるま

ALLOS®

fromクライネ toバスアウロス。



シンフォニー No.501S シンフォニー No.533

アウロスが誇る超精密技術の結晶。

格調高いハードロック調のデザイン。

奏者に伝える絶妙のゴイイジング。

世界一流プレーヤー絶賛の名器。

ソプラノ・アルトリコーダー至極輝

新考案・指かけ付!

5ヶ国語表示・5ヶ国語対応・5ヶ国語保証

お問い合わせ：ソプラノ100円 アルト200円

トヤ楽器製造株式会社

東京本社/〒174 東京都板橋区大蔵町41

TEL:03-366-8301(代)

大阪支業所/〒541 大阪市中央区北久宝寺町2-1-7

本町和光ビル802号 TEL:06-264-7191(代)

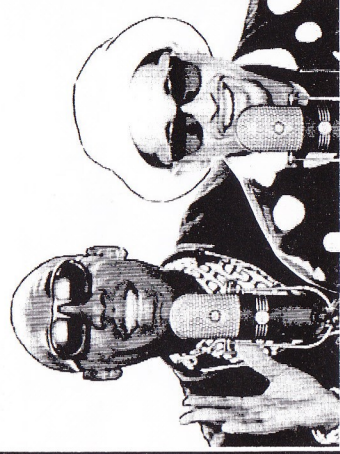
最新のダブルコーティングです。 PS-X、誕生。



AXIA



ダブルコーティングとスリム、
カセットの最新条件です。



三崎のうた

作詩 北原白秋

(I) 丘の三角畑

鍛打つ、鍛打つ、
裸で鍛打つ、
空は円天井、
地面は三角、
光りは薔薇いろ、藍いろ、利休茶。

鍛打つ、鍛打つ、
並んで鍛打つ。とべらの木は山形
反射は三角。
光は銀いろ、薔薇いろ、灰いろ。

鍛打つ、鍛打つ、
離れて彼方此方、
黙って鍛打つ、
向うにライ麦、こちらに人参。
光は利休茶、緑に、金色。

鍛打つ、鍛打つ、
うしろむきに鍛打つ、
一心に鍛打つ、
打たずにやゐられぬ、
とべらの木の周囲を廻って鍛打つ。
光は薔薇いろ、空いろ、利休茶。

鍛打つ、鍛打つ、
近寄って鍛打つ、
キラキラするのは巡查のサッペル、
畑の上では蒸気が旗振る。
光は薔薇いろ、湾内や真骨。

鍛打つ、鍛打つ、
振り返って鍛打つ、
とべらの木の下では
あかんぼうがすすすや、
鶏がコケッコッコ。
光は薔薇いろ、藍いろ、利休茶。

鍛打つ、鍛打つ、
向きあって鍛打つ、
拌んで鍛打つ、打たずにやいられぬ、
心から鍛打つ、
光は薔薇いろ、向日葵、金色。
ぎやあとあかんぼうが啼き出した。

(II) 白南風黒南風

油壺のうた

小焼、夕焼、
風ぐるま、
明日は日和か、
風ぐるま。
せめてたよりをまぢましましよか。
風が吹きます、白南風が。

小焼、朝焼、
風ぐるま。
明日はあらしか、
風ぐるま。
どうで、たよりも片だより。
風が吹きます、黒南風が。

(III) 海 雀

海雀、海雀、
銀の点点、海雀、
波ゆりくればゆりあげて、
波ゆきゆけばかげ失する
海雀、海雀、
銀の点点、海雀。

(IV) 雨中小景

雨はふる、ふる雨の霞がぐれに
ひとすちの煙立つ、誰が生活ぞ、
銀圓にからみゆく古代紫、
その空に城ヶ島近く横たふ。
なべてみな空なりや、海の面に
輪をかくは水脈のすち、あるは離れて
しみじみと泣きわかれゆく、
その上にあるかなきふる雨の脚。

遙かなる岬には波もしぶけど、
船漕の雨の中、蟹小舟ゆたにたゆたふ。
棹あげてかぢめ採りゐる
北斎の蓑と笠、中にかすみて
一心に網うつは安からぬけふ日の惑ひ。
さるにてもうれしきは浮世なりけり。
雨の中、をりをりに雲を透かして
さ霖に投げかくる金の光は
また雨に忍び入る。音には刻めど
絶えて影せぬ鶺鴒のこゑをたよりに。

(III) 鮪 組

南風だ、船出だ、
鮪漁だ、組だ。
えいそら、えいそら。

ただこの意気だぞ、
裸でやっつけ。

今に鮪の
富士の山
えいそら、えいそら。
一度家をでりや、
女房、子もあろか。
えいそら、えいそら。
ただこの意気だぞ、
早船ですっ飛べ。

意気は三崎の
鮪組。
えいそら、えいそら。
しげよ、時化の風
どんと吹いてござれ。
えいそら、えいそら。

ただこの意気だぞ、
三崎の若衆だ。
腕に筋金、
赤ふどし。
えいそら、えいそら。
潮だ、早瀬だ、
そりゃこそ、鮪。
えいそら、えいそら。

海は鯨の
雪なだれ。
えいそら、えいそら。
風は南風のかぜ、
八挺船の船風。
えいそら、えいそら。
ただこの意気だぞ、
占めたぞ。追っかけ。

一氣にやっつけ。
灘は相模灘、
初鮪。
えいそら、えいそら。
漕いで漕いで漕いで、
北条の入江。
えいそら、えいそら。
ただこの意気だぞ、
見えたぞ、燈だ。
晩にや、矢藻の
お酒宴。
えいそら、えいそら。



感じあう心たいたいせつに
feelin' YAMAHA

Yamaha makes New Tradition

カスタムトランペット

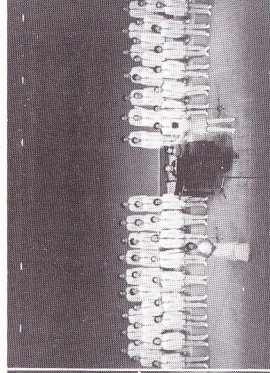
独自の組成のイエローグラスを開発し、
より重く厚い、バワフルな音色を実現。
敏捷で柔軟な表現力を探究。

株式会社 宮地商会

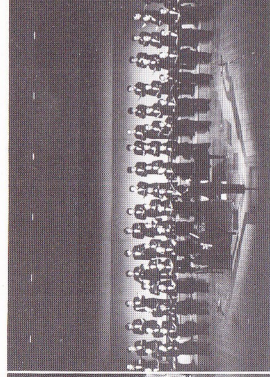
東京都千代田区神田小川町1丁目4番地
電話 (3255)2751 番(代)



▲第8回



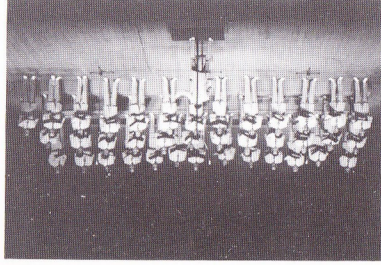
▲第7回



▲第6回



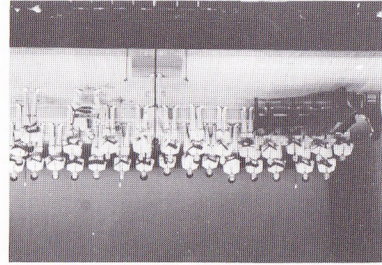
▲第5回



▼6回



▼10回



▼11回

小田原男声合唱団

3 | 2 | H.元 | 63 | 62 | 61 | 60 | 59 | 58 | 57 |
 1991 | 1990 | 1989 | 1988 | 1987 | 1986 | 1985 | 1984 | 1983 | 1982

2・10 榎永先生発起
 団長・榎永泰枝

榎永先生御病氣静養
 渡辺達己指揮者に就任

団長・日下邦隆

7・13 第20回 柳河風俗詩・三鷹のつた・アトメイソンのタータ・ウエルテイホへの合唱曲＝監演・多田武彦
 『小田原フィル』

7・16 第18回 トライナー名曲集・シユエルト曲集・組曲「草野心算の詩から」＝監演・畑中長輔

11・4 第16回 エリミアの哀歌(分りる)・シユエルト曲集・大主持次の三つの詩＝監演・黒岩茂臣

7・13 第14回 シユエルト曲集・組曲「月夜の一群」・「蛙の歌」・ウエスタンスタルシア

7・2 第12回 聖手エチリアのミ(グ)シ・舟屋の詩・メロウエスト(ハール)・愛唱歌

7・8 第13回 北才の畑・花木と太陽の歌・黒人霊歌・ドイツ民謡「大磯小学校会館」

7・12 第19回 組曲「わがふるまひのうた」・学生王子・愛唱歌

7・9 第17回 合唱のためのコンボシシヨンの番・つづねと喜生・ホリゴロソング・スベへの合唱曲

7・10 第11回 「沙羅」・「月光とエロ」・シーシヤンマイヤー・シユエルトの心づみ集

榎永先生追悼演奏会(東京)・モーツァルト・ルクイエム(小田原)

西渡増築のエステイタル「第九」・ルクイエム合唱演奏会(小田原水難会・匣工コトコトス)

森と湖のコンサート(美谷井)・神奈川フィル「第九」(船田)

東海マールクワヤード合唱演奏会(名古屋)
 藤沢スベク「アヤータ」

藤沢スベク「ウイリアムテル」・東京リターターフェルトの合唱演奏会(小田原)・藤沢「第九」

JAMCA演奏会(名古屋)・小田原水難会演奏会・小田原フィルハーモニー「第九」・藤沢「第九」

東京リターターフェルト合唱演奏会(東京)・JAMCA演奏会(広島)・榎永隆一郎追悼コンサート(新宿)

JAMCA演奏会(東京)・ルクイエム「リヤソ」・神奈川県合唱のエステイタル(横浜)

JAMCA演奏会(新宿)・平塚市中央公民館開館記念演奏会・神奈川県合唱のエステイタル(横浜)・メワイヤ(藤沢)

▼第12回

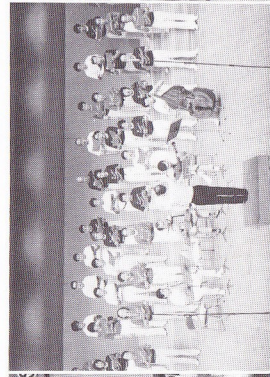


▼(東京)JAMCAより

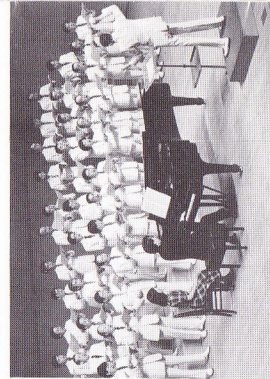


ODAWARA DANSEI GAKU

▼第14回

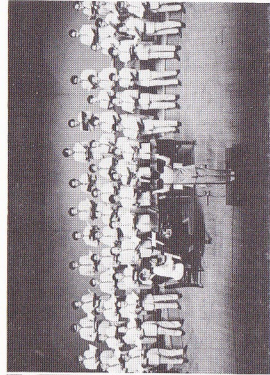


▼第15回

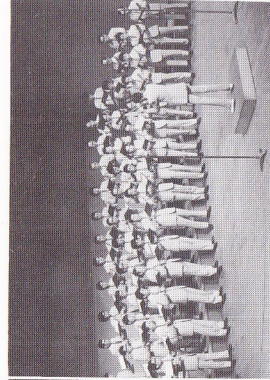




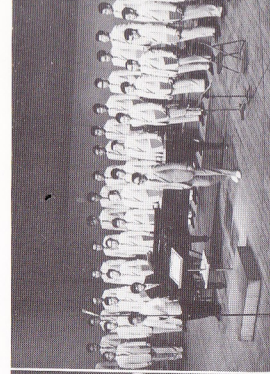
▲第4回



▲第3回



▲第2回



▲第1回定期演奏会

20年のあゆみ

56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	S.44
1981	1980	1979	1978	1977	1976	1975	1974	1973	1972	1971	1969

団長・下村謙哉

ベルリン・リッターター・コエルツェン
インとの交差演奏会

団長のホルンへの制定
団長・松本和夫

団長・江川 卓

5・2バリの団員板橋氏・櫻宮君に
贈舞
団長・大塚正夫

東京の「雨」リコーチェンク
団長・豊野正純

日本男声合唱協会 (JAMCA) 加盟

代表・奥谷昭次

発起人会発足
(奥石・大塚・松本・井上・長谷川)
11・2合唱団発足・第1回練習
橋本先生常任指揮者に就任

団創立のための第1回会合
(奥石・大塚・松本・角田・井上)

沿革

7・11第10回 小笠原歌・おちろこ若
人の歌 (タチノリ) ・組曲「書留の
窓」・たのしい組曲

7・12第9回 スヤツツサ (シエベ
ル) ・組曲「鳥毛」・ボレロ組曲
曲・「阿波」(三木稔)

7・8第7回 ミチノ長調 (シエベ
ル) ・舟の讃歌・シラシラの歌・ミ
ユエシカル組曲

7・2第6回 ヤウラ歌・メネ
ルス(1)合唱曲・呷の意・日教協集
・黒人讃歌

6・28第4回 日本民謡・組曲「雨」
・水のいのち・シユベルト曲集

7・8第3回 野子エチリアのミサ
(グロ) ・柳河風俗詩・ミヤイヤ
ンチャイ・柱木と天鷹の歌

6・18第2回 組曲「母の歌」・チャ
イコフスキー名曲・組曲「民光と工
口」

6・18第1回 ミサと番 (グロ) 組
曲「雨」・「母」ボレロ・アルパム
・日本民謡

定期演奏会

藤沢大ベテ「カルメ」(藤沢・純則)
神奈川フィル「第九」(榎垣・小田原)
神奈川県合唱団「エス・マイナル」(藤沢)

小田原市民劇場「日本の合唱曲を歌う」・「山田一雄
の世英」エス・マイナル・JAMCA演奏会(弘前)
メカイヤ演奏会(小田原)

JAMCA演奏会(広島)・神戸工大演奏会・神奈川
県合唱団「エス・マイナル」(横浜)
東海マール・リコーチェンク同演奏会(名古屋)

JAMCA演奏会(名古屋)・藤沢大ベテ「せせり」
及の理髪師・ウエルツァ「リコチェンク」(藤沢)・
リコーチェンク

リコーチェンク
第4回「知られざる名曲をたまたむ」(横浜文化)

リコーチェンク
リコーチェンク
リコーチェンク

リコーチェンク

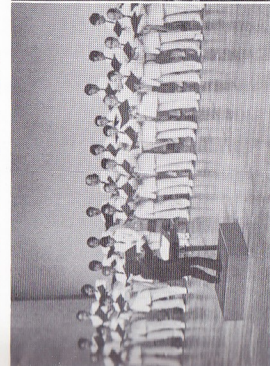
出演ステージ



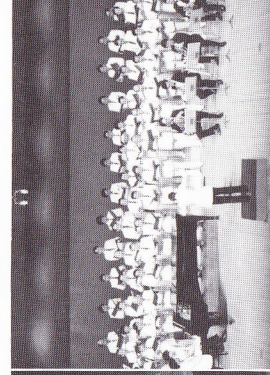
在りし日の榎垣先生

▼シヨイントコンサートより

▼第17回



▼第18回



▼第19回



◆1990～1992 小田男カレンダラー（予定含む）

年月日	曜	演奏会名等	会場	指揮
90. 7. 14	土	第19回定期演奏会	小田原市民会館	渡辺・松本・柏木
90. 9. 1	土	神奈川フィル定演 トボルザークレクイエム	神奈川県民ホール	黒岩英臣
90. 10. 7	日	第九シンフォニーの夕べ	小田原市民会館	栗田博文
90. 10. 10	水	Sweet Town Concert	御茶の水カザルス	渡辺決己
90. 11. 18	木	第10回JAMCA	小田原市民会館	畑中良輔・渡辺決己
90. 12. 9	木	神奈川県合唱フェスティバル	県立音楽堂	渡辺決己
91. 2. 10	日	福永陽一郎追悼コンサート	東京芸術劇場	渡辺決己
91. 6. 9	日	湘南台合唱祭	平塚市民センター	渡辺決己
91. 6. 22～23 (土)日		定期演奏会強化合宿	松田中学	多田武彦・渡辺決己
91. 7. 13	日	第20回定期演奏会	小田原市民会館	多田武彦・渡辺決己
91. 9. 8	日	ハイドン「四季」	伊勢原市民化会館	黒岩英臣
91. 10. 19	土	モーツァルト「レクイエム」	小田原市民会館	黒岩英臣
92. 7. 11	土	第21回定期演奏会	小田原市民会館	
92. 11	予定	第11回JAMCA	名古屋	

◆1990～1991 演奏曲目

No.	作曲者	曲目	No.	作曲者	曲目
1	ドイツ民謡	羊飼いの日曜日	14	ドヴォルザーク	レクイエム
2		かりゆいどの別れ	15	ベートベン	第九シンフォニー「合唱」
3		わが恋人よ	16	加藤 正二	丹沢讃歌
4		きみがおもかげむねに	17	南 弘明	月下の一群
5		まことの愛	18	清水 脩	月光とピエロ
6		ローレライ	19	グラナハム	いざ起て戦人よ
7	新実 徳英	男声合唱とピアノのための「ことはあそびうたII」	20	日本民謡	大島節
8	墨人霊歌集	ドライ・ボーンズ	21		最上川舟唄
9		ゆれるよ幌馬車	22	山田 耕作	そうらん節
10		リバプリアック賛歌	23		この道
11		深い河	24		中国地方の子守唄
12	石井 歓	枯木と太陽の歌	25	海沼 実	里の秋
13	多田 武彦	雨	26		

美しい合唱は人生のロマン

オダダンの楽しき仲間

トップテナー

吉田 晃(小田原) 斎藤恵司(厚木) 福島 修(小田原)
 日置達男(南足柄) 加藤 元(大磯) 西山広木代(二宮)
 中島弘光(南足柄) 北岡一夫(厚木) 長谷川幸雄(小田原)
 李中 勉(秦野) 加藤重喜(秦野)

バリトン

足利裕之(湯河原) 柏木秀茂(小田原) 下村興毅(小田原)
 松本和夫(小田原) 氏家慶明(山北) 中島広志(厚木)
 広田守邦(茅ヶ崎) 伊東清邦(秦野) 小林隆一(湯河原)
 鉦鹿明弘(東京) 飯島 聡(大和) 大塚孝文(小田原)

第20回定期演奏会スタッフ

実行委員長 斎藤恵司 事務局 井上忠彦 演出 松本和夫
 鈴木幸三 長谷川幸雄 台宿 福島 修 打ち上げ 高橋 潔 舞台監督 藤本慎治
 チラシ・プログラムデザイン 伊藤友美

小田原男声合唱団スタッフ

指揮者 渡辺決己 副指揮者 松本和夫 団長 柏木秀茂 副団長・技術部長 松本和夫
 副団長・財政部長 渡辺誠之 副団長・団員部長 福島 修 事務局長 井上忠彦 渉外部長 下村興毅
 事業部長 斎藤恵司 情報部長 日置達男 備品部長 高橋 潔 監査 足利裕之 坂口宗夫
 練習ピアノリスト 岩崎紀子

セカンドテナー

青野正純(小田原) 青野幸雄(秦野) 井筒 稔(海老名)
 北島道治(東京) 佐々木 純(南足柄) 佐藤 精孝(二宮)
 鈴木幸三(山北) 鈴木昌弘(小田原) 高橋 梁(平塚)
 平山 諭(南足柄) 宝子山尚生(小田原) 諸星 学(秦野)

ベース

井上忠彦(小田原) 坂口宗夫(小田原) 渡辺誠之(小田原)
 下沢 孝(小田原) 日下部 陽(平塚) 中山博之(二宮)
 江藤凱夫(厚木) 矢島隆司(小田原) 杉本英樹(小田原)
 一色義信(秦野) 遠藤俊一(秦野) 高橋秀人(小田原)

足利裕之

アポロピアノ

東洋ピアノ製造株式会社



下村興毅

井上楽器

小田原お堀通り
TEL. 24-0515